

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）

分担研究報告書

医療職に対する足の観察フットチェックの体系的教育がフットチェック普及にもたらす効果の検討

研究分担者 石橋宏之 愛知医科大学医学部・教授

研究分担者 折本有貴 愛知医科大学医学部・准教授

研究要旨

糖尿病足病変（DF）のリスクについては、年間約2%の糖尿病患者が足潰瘍を発症し、さらにその再発率は3年以内に約50%とされる。本邦ではDFの予防を主たる目的とするフットケアが広く実施されているが、未だに糖尿病患者数と比較すると、フットケアを実施できる医療者数は十分であるとは言えない。糖尿病患者の入院する病棟スタッフに対し、フットケア施行者としての教育を施し、フットケアの実施率が向上するかを検証した。

A. 研究目的

糖尿病患者は神経障害・血管障害を背景にDFを発症するリスクが高い。米国では糖尿病患者の約25%が生涯に足潰瘍を合併し、年間約2%の糖尿病患者が足潰瘍を発症し、また、足潰瘍は再発が多く3年以内に約50%再発するとも言われている。足潰瘍患者の15%以上が下肢切断に移行する。我が国では足潰瘍罹患率の統計はなく米国より低いことが予想されるが食生活の欧米化に伴い患者増加が危惧されている。下肢切断は患者のQOLを著しく損ない生命予後も不良であるため足病変の早期発見・再発予防が重要であり、看護師によるフットケアは有用であると考えられる。しかしながら糖尿病のため入院している患者においても十分なフットケアが実施されているとは言えず、フットケア提供者の拡充は必須と考えられている。本研究では、愛知医科大

学病院糖尿病内科の病棟において、フットケアの前段階である足の観察フットチェックの実施率を向上させるため、フットケアに関する教育を病棟看護師に対し実施し、その効果を検証した。

B. 研究方法

愛知医科大学病院糖尿病内科病棟の看護師31名を対象とし、以下の教育を実践し、教育の前後での糖尿病の入院患者に対するフットチェック実施率を比較した。

〔教育の流れ〕

1. ナーシングスキル「フットケア」（エルゼビアジャパン、<http://nursingskills.jp/>）の課題を配布し100%正答に至るまで反復学習
2. フットケアのチェックリストの配布と自習
3. フットケアの勉強会を実施

4. フットケア外来を見学し足の観察、評価法、患者への指導の実践を学ぶ
5. 入院患者へのフットチェックを2例実施
6. フットケア研修修了者の指導の元、フットチェックを実施し合否判定
7. 入院患者へのフットチェックを実践

(倫理面への配慮)

厚生労働省・文部科学省による「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」および個人情報保護法に準拠している。

C. 研究結果

2020年度末時点では病棟看護師28名中22名(76%)がフットチェック実施者であったが、2021年度初頭には異動に伴い31名中20名(63%)がフットチェック実施者、9名(28%)が非実施者となった。

糖尿病内科の入院患者において、2021年度上半期のフットチェック実施率は66%であったが、下半期の同実施率は88%であった。

D. 考察

従来のフットケアに関する教育では看護師向けの院内勉強会を実施していたが、フットチェックの定着は不十分であった。本研究では、さらに体系的な教育課程を設定することの有用性を検証した。オンライン教材による事前学習と習熟者によるフットケア外来の実践の場を見学させた上で、フットチェックの実践を繰り返し実施し、最終的に指導者から修了認定を受けることで、フットチェックに対する認識が向上し、自

信をもって自ら実施することにつながったと考えられる。

E. 結論

フットケア外来における管理にとどまらず広くフットチェックを実施することがDF予防の施策として重要であることを鑑みると、本研究で検証した医療スタッフへの大系的フットチェック教育は今後の標準的管理法の新たな候補となりうると考えられる。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

該当なし

2. 学会発表

糖尿病内科病棟看護師のフットチェック定着に向けた教育体制構築への取り組み
鈴木 小夜子, 片桐 美奈子, 姫野龍仁, 柿崎優香, 毎床優里, 鈴木 孝宗, 鬼頭 真樹子, 近藤 正樹, 恒川 新, 中村 二郎, 神谷英紀

第96回日本糖尿病学会中部地方会

2022年11月

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし